

8月17日(土) 介護講習会

場所 皆房公民館

講師に日本赤十字社鹿児島県支部の砂原加津代さんを迎えて介護講習会を皆房公民館で開催しました。砂原さんは、看護師の資格を持ち母親の介護も経験された方で、講習会の資料をもとにしながらもご自分の経験に基づいた事例を加えながら分かりやすい介護の方法、介護予防、認知症発症の種類とその対応などについて教えていただきました。

最後に参加された方から「とてもいいお話を聞くことができました。今後の講習会には、私たちのような介護される側の年代中心ではなく、もう少し若い、介護をする年代の方々に参加していただくともっと有意義な講習会になるのではないかと思いました。」というご意見をいただきました。会場の皆さんも大きくうなずいておられました。

認知症サポーターをご存じですか

認知症センターは「なにか」特別なことをする人ではありません。認知症について正しく理解し、偏見をもたず、認知症の人や家族を温かく見守る応援者です。自分自身の問題として認識し、友人や家族に学んだ知識を伝えること、認知症の人やその家族の気持ちを理解しようと努めることもセンターの活動です。個人でできる地域の福祉活動です。鹿児島市でも認知症センター養成講座を実施しています。ビデオ上映など含めた60分から90分の講座です。参考までに養成講座の柱になる基本姿勢と具体的な対応について掲載してみました。

基本姿勢 3つの「ない」 1 齧かせない 2 急がせない 3 自尊心を傷つけない

具体的な対応の7つのポイント

- まずは見守る（認知症と思われる人に気づいたら、本人やほかの人に気づかれないよう、一定の距離を保ち、さりげなく様子を見守る。）
 - 余裕をもって対応する（こちらが困惑や焦りを感じていると、相手に伝わって動搖させてしまします。自然な笑顔で応じましょう。）
 - 声をかけるときは1人で（複数で取り囲むと恐怖心をあおりやすいので、できるだけ1人で声をかけます。）
 - 後ろから声をかけない（一定の距離で相手の視野に入ったときに声をかけます。）
 - 相手の目線にあわせてやさしい口調で（認知症の人は強い不安を感じているので、小柄な人の場合は、体を低くして目線を同じ高さにして対応します。）
 - おだやかに、はっきりした話し方で（高齢者は耳が聞こえにくい人が多いので、ゆっくり、はっきりと話すように心がけます。その土地の方言でコミュニケーションをとることも大切です。）
 - 相手の言葉に耳を傾けてゆっくり対応する（急がれるのが苦手、当時に複数の問い合わせるのも苦手です。相手の反応を伺いながら会話をしましょう。）



花野枝区社協だより

目標 ~ みんなで助け合い、やさしく支えあう花野社協 ~



地域の皆さんとの協力を得て、夏休みに「ふれあい活動」を開催

8月8日（木）花野小学校の屋内運動場で
校区社協の主催でふれあい活動を開催しました。校区の多くの子供たちと保護者やボラン
ティアが集まりミニ灯ろう、紙ヒコーキ、お

手玉作りや竹とんぼ遊びで楽しい時間を過ごしました。最後に撮影した集合写真には、楽しかったという子供と参加してよかったですといふ大人の笑顔がありました。



五月二十五日総会が行われ、会長を引き受けることになりました。福祉協議会は、社会福祉の増進と福祉のまちづくりを目的としています。特に高齢者福祉、児童福祉を中心として活動していきます。

「子どもの心を抑圧してはいけない」「子どもに我慢を教えよう」一見矛盾するこうした言葉に迷を感じる親も多いと聞きます。どんな親でもその言動を分析すればいたるところに矛盾が見つかるはずです。しかし、作家の山田太一氏は興味深い指摘をしています。「子どもを大事に思うものだけが矛盾したことと言う資格があり、そうでない者は合理性でいかなければならぬ」そして「そのときの態度や物言いを選び親の姿勢が大切」と強調しています。矛盾に立ち向かう親の生き方と愛情。その真剣さが子どもの心を揺さぶるのではないでしょうか。

この花野校区社協だよりは、赤い羽根共同募金の助成を受けて発行しています。

花野校区社会福祉協議会
会長 通賀 良